

## 令和3年度後期生徒総会 激励 (R3, 10. 27)

校長 高瀬 知郎

雄中生の皆さん、こんにちは。後期生徒総会、おつかれさまでした。

前期の総会はランチルームからのリモート開催でしたが、今日は通常通り、全校生徒が一堂に会して総会を行うことができました。立会演説会でも提起された新しい学校づくりの提案に対して、活発な議論が行われたことをうれしく思います。

改めて、令和3年度の学校づくりをリードしてくださった前期生徒会の本部役員、専門委員長、専門委員の皆さん、おつかれさまでした。活動スローガン「繋<sup>つながり</sup>」を掲げ、今日まで、朝のあいさつ運動、世界とつながる古着回収、体育大会の運営等の活動を通して雄中生同士の「絆」を深めてきました。また、活動を通して、自分たち雄中生は世の中に役立つ存在であるという「誇り」も育てることができたのではないのでしょうか。みなさんの意志は、必ずや後期役員、専門委員達に引き継がれ、今後も脈々と雄山中学校に生きていくことでしょう。本当にありがとうございました。そして、これからも後期生徒会への応援をよろしく願います。

後期に生徒会を引き継ぐ皆さん、生徒総会に向けての準備、おつかれさまでした。今年度は、新型コロナのために体育大会と準備日程が重なり、例年以上の忙しさだったと思います。その中でも、しっかりと仕事を進め、この生徒総会を成功に導いてくれたことに感謝します。

いよいよ今日から後期の学校づくりが始まります。本当に学校を変えていけるのは先生たちではありません。生徒会の力、「生徒自治」の力です。先日行われた体育大会の応援パフォーマンス、そしてよさこいソーラン、3年生の必死のリードに応えるみんなの一生懸命な姿に、涙が出るほど感動しました。先生の力に頼らず、生徒の力だけであそこまで人を感動させることが君たちにはできる。あれこそが「生徒自治」の姿です。よいもの、人の心を動かすものを作り上げるために、何度も話し合いを重ね、試行錯誤しながら一步一步前進する。学校生活全体が、あの気迫に満ちた体育大会のようであってほしいと思いました。後期は、ますます生徒会の力を高め、雄山中学校を本物の「生徒自治の学校」へと進化させていってください。

そのための成長課題を三つ挙げます。

一つ目は、「いじめに真正面から取り組む」ことです。「いじめ」は中学校の最重要課題です。大切な仲間を苦しめ、時に死に追いやることさえある「いじめ」は、絶対に許さない！その強い気持ちをもって、生徒会を挙げて予防・解決に取り組んでほしい。自分たちの問題は自分たちで解決する。その姿勢が大切な仲間の命を守るのです。「いじめなんかない」と簡単に決めつけてしまうのではなく、「いじめは常に身の回りに生まれている」という認識に立ち、生徒自治の力で、その未然防止、早期発見、早期解決に取り組み、すべての生徒が安心して学べる学校を築いていきましょう。

二つ目は、「自分から挨拶できる人になる」ことです。受け身ではなく、自分から前向きに人と関わり積極的に生きようとする姿勢。その主体的な生き方が「自分から挨拶」という行動に表れます。全校を挙げて挨拶運動に取り組み、仲間の絆を深めるとともに、主体的な生き方を身に付け、自分から学校を明るく変えていってください。

三つ目は、「学習に真剣に取り組む」ことです。みなさんの教室に授業中机に突っ伏している人はいませんか。本当に眠っているかどうかは別にして、そんな学習態度で将来必要となる学力を身に付けられるのでしょうか。実際に世の中に出て仕事をするために必要な力は、中学・高校で身に付けた基礎学力なのです。今、本気で勉学に取り組まなければ、将来社会に出たときに深く深く後悔することになります。間違いなく。

みなさんのふるさと、立山町の未来は、今のみなさんのがんばりにかかっています。未来の立山町のために、世の中の幸せのために、仲間と励まし合って授業や家庭学習をがんばっていきましょう！そして、寝ている人は優しく起こしてあげましょう。

これからの雄中が目指すべきは、言葉だけでない本物の「文武両道」です。この半年間、体育大会や部活動の大会での大活躍を通して、雄中生の「武」はたくさん見せていただきました。校長として誇らしい気持ちに何度もなりました。次は、「文」=学問での活躍を見せてほしい。あの、部活動や行事で発揮される雄中生の爆発的なエネルギー、県下トップレベルの潜在能力を、学業においても思いきり発揮してほしい。

後期、立山の主峰「雄山」の名に恥じない、富山県一の「文武両道」の学校を目指して、みんなでがんばっていきましょう！